

## II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

### 7 英語（学校選択問題）

#### (1) 正答率

問題	配点	正答率		一部正答率		誤答率		無答率		通過率 率= 得点計 (人数×配点) (%)	
		数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)		
1	No. 1	2	299	86.4	0	0.0	47	13.6	0	0.0	86.4
	No. 2	2	286	82.7	0	0.0	60	17.3	0	0.0	82.7
	No. 3	2	259	74.9	0	0.0	87	25.1	0	0.0	74.9
	No. 4	2	338	97.7	0	0.0	8	2.3	0	0.0	97.7
	No. 5	2	304	87.9	0	0.0	42	12.1	0	0.0	87.9
	No. 6 (1)	3	319	92.2	18	5.2	7	2.0	2	0.6	95.5
	No. 6 (2)	3	137	39.6	111	32.1	96	27.7	2	0.6	58.8
	No. 6 (3)	3	208	60.1	105	30.3	33	9.5	0	0.0	77.6
	No. 7 (1)	3	258	74.6	0	0.0	88	25.4	0	0.0	74.6
	No. 7 (2)	3	274	79.2	0	0.0	72	20.8	0	0.0	79.2
No. 7 (3)	3	270	78.0	0	0.0	75	21.7	1	0.3	78.0	
2	問1	3	327	94.5	0	0.0	19	5.5	0	0.0	94.5
	問2	4	244	70.5	58	16.8	43	12.4	1	0.3	80.9
	問3	3	318	91.9	0	0.0	27	7.8	1	0.3	91.9
	問4	4	294	85.0	46	13.3	6	1.7	0	0.0	93.9
	問5	4	128	37.0	10	2.9	205	59.2	3	0.9	38.5
	問6 (1)	3	309	89.3	0	0.0	35	10.1	2	0.6	89.3
	問6 (2)	3	274	79.2	0	0.0	66	19.1	6	1.7	79.2
問7	4	116	33.5	106	30.6	80	23.1	44	12.7	51.1	
3	問1	3	159	46.0	6	1.7	149	43.1	32	9.2	47.0
	問2 A	3	234	67.6	19	5.5	92	26.6	1	0.3	70.0
	問2 B	3	136	39.3	47	13.6	160	46.2	3	0.9	45.2
	問3	3	62	17.9	88	25.4	123	35.5	73	21.1	30.0
	問4①	3	182	52.6	0	0.0	159	46.0	5	1.4	52.6
	問4②	3	132	38.2	0	0.0	204	59.0	10	2.9	38.2
	問4③	3	158	45.7	0	0.0	176	50.9	12	3.5	45.7
	問5	4	115	33.2	85	24.6	36	10.4	110	31.8	49.8
	問6 (1)	3	163	47.1	5	1.4	103	29.8	75	21.7	47.8
	問6 (2)	3	56	16.2	12	3.5	124	35.8	154	44.5	17.8
問6 (3)	3	94	27.2	7	2.0	127	36.7	118	34.1	28.2	
4		10	29	8.4	286	82.7	26	7.5	5	1.4	53.9

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

#### (2) 問題の内容

① 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る。

No. 1～3 映画の上映開始時間、コーヒー1杯の値段、母親が息子の財布を見つけた場所等、日常的な場面の会話を聞いて、絵の中から、質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

No. 4、5 友人に再会する場面や、買い物に友人を誘う場面といった、日常生活における「ある場面」を説明する英文を聞いて、質問に対する答えとして適切な表現を選ぶ。

No. 6 TakakoとALTのMr. Wilsonが外国語の学習について会話をしている。その会話を聞き取り、内容について英語で答える。

No. 7 中学生のKeikoが、自分の住む町についてのスピーチを英語でおこなっている。そのスピーチを聞き取り、内容についての質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

2 AkinaとHayato、ALTのMr. Leeの会話や発表である。日本のショッピングモールでのモールウォーキングや、シンガポールのスーパーマーケットで働くお年寄りについての複数のまとまりのある英文を読み、あらすじや大切な部分を把握し、場面に応じて英語で適切に表現する。

3 Kazumaはサンゴ礁の保護について英語で文章を書いた。彼がサンゴ礁に興味をもったのは、沖縄で家族と一緒にサンゴ移植プログラムに参加したことがきっかけだった。彼はサンゴ礁が減少している原因や、さまざまな対策について調べた。この英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取り、内容についての質問に答える。

4 People need information literacy skills. Some people say that every elementary school student should start learning these skills at school. What do you think about this idea? という英文に対して、自分の考えを明らかにして、その理由がわかるように、記入上の注意に従って自分の考えを40語以上50語程度の英語で書く。

### (3) 所見・解説

1 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力をみようとしたものである。

No. 1 会話を聞いて、映画の上映開始時間を表す絵を選ぶ問題である。会話では、午前中に上映される映画のチケットを買っているので正答はAである。

No. 2 店内で注文している場面の会話を聞いて、コーヒー1杯の値段を表す絵を選ぶ問題である。追加で注文したコーヒーの値段が問われているので、正答はBである。何が問われているかを理解し、聞き取れた情報から答えを導き出す必要がある。

No. 3 会話を聞いて、財布を見つけた場所を答える問題である。Atsushiの母親はベッドの下で見つけたと言っているため、正答はDである。

No. 4 アメリカの空港に着いたMayumiがJakeと再会する場面である。JakeがMayumiにどれくらいの期間滞在するのかをたずね、それに対してMayumiは何と答えるかが問われている。正答は「3週間」という期間を表すCである。

No. 5 Kentaは週末に、スポーツ店に買い物に行こうとしている。友達Tomと一緒にいきたいと思っているKentaがTomに何と声をかけるかが問われているので、週末に時間があるかをたずねているCが正答である。

No. 6 TakakoとALTのMr. Wilsonの、外国語学習についての会話を聞き取り、英語の質問に対して答えとなる英文を完成させる問題である。

(1) 質問は「Mr. Wilsonはいつ日本語を学び始めたか」というものである。Mr. Wilsonの発言にある“I started learning it when I was a high school student.”から、正答は、high school studentである。

(2) 質問は「Mr. Wilsonは日本で何をすることが好きか」というものである。Mr. Wilsonの発言にある“I really like to visit old towns in Japan.”から、正答はvisit old townsである。townsを単数形で答えてしまっているものや、oldとallの聞き間違いによる誤答がみられた。

(3) 質問は「Takakoは将来どの言語を学びたいと思っているか」というものである。Takakoが会話の中で“I want to learn Chinese in the future.”と話していることから、正答はwants to learn Chineseである。

No. 7 自分の住む町についてKeikoがおこなったスピーチを聞き取り、英語の質問に対する答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。

(1) 質問は「Keikoはなぜ自分の町の変化を学ぼうと決めたのか」というものである。“I wanted to know more about the changes in my town, so I decided to learn about those changes during summer vacation.”とあるので、正答はBである。

(2) 質問は「デパートが閉店した後、その場所に何が建てられたか」というものである。“it closed, and we have a hospital there now.”とあるので、正答はAである。

(3) 質問は「Keiko はどのようなことを望んでいるか」というものである。「I hope that the warm hearts of the people in my town will never change.」とあるので、正答はDである。

「聞くこと」の学習においては、No. 1のような短めの英語を聞くことから始め、英語を聞き取り、絵や図表等の情報につなげることに慣れていくことが重要である。No. 4や No. 5では、特定の場面での表現を正確に理解することが大切である。No. 6や No. 7のようなまとまりのある英語では、概要や要点を正確に把握するために、メモをとる等の工夫をして、必要な情報を聞き取る力を身に付けたい。

2 複数のまとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取り、場面に応じて英語で適切に表現する力をみようとしたものである。

問1 会話の流れと合うように、空欄を補う文を選ぶ問題である。Akina の発言にある“Many senior citizens are working in Japan.”と Mr. Lee の発言にある“A lot of senior citizens in Singapore are still working, too.”から、正答はウとなる。

問2 与えられた日本語に合うよう、空欄に4語以上の適切な英語を書き、英文を完成させる問題である。don't have to ～「～する必要がない」、worry about ～「～を心配する」の形が作れるかがポイントで、正答は don't have to worry 等となる。

問3 本文2の内容からインタビューした結果を表したグラフとして最も適切なものを選ぶ問題である。最後に、“There were more people who said they felt healthier after mall walking than people who said they make friends or learned useful things.”とあることから、正答はウとなる。

問4 本文3の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。正答は、“Because he can meet a lot of people.”等であるが、この問題は本文5行目の“He can meet a lot of people, so he likes working at this supermarket.”の文を読み取ることで正答を導き出すことができる。

問5 単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。正答は imagine what our lives will be である。並べかえの文は、意味をしっかりと考え、構文にあてはめて作る必要がある。この問題では what S will be like 「S はどのようなものになるのか」という間接疑問の表現を作れることがポイントとなる。最も多かった誤答は what 以下が what will be our lives となっているものであった。

問6 本文1～4の会話と発表の内容と合うように、示された英語に続く最も適切なものを選び、英文を完成させる問題である。(1) 本文4において Akina の発言“I'm surprised that so many senior citizens in Singapore are still working.”と Hayato の “Me, too.”の発言から、正答はエとなる。(2) 本文2において Akina のスピーチにある“Many senior citizens join these programs.”から、正答はイとなる。

問7 本文の内容をふまえた自然な流れの1文になるように、空欄に5語以上の英語を書く問題である。空欄のある英文の次の発言に、“Sure, I still have it at home. Do you want to see it again?”とあることから、借りたいものは「一度見たもの」であり、本文3において見せた「Mr. Lee がシンガポールで撮影したビデオ」であることがわかる。そのため、正答は the video you took in 等となる。

3 まとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力をみようとしたものである。

問1 単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。「(これは、サンゴ礁を大事に) することによって、多くの生き物を救うことができるということの意味する」となる。主語+mean +thatで始まる節の表現と前置詞+動名詞の表現をそれぞれ理解することが大切である。means that we can save many living things by takingが正答となり、誤答にはby takingの位置が誤っているものや、thatで始まる節が正しく作られていないものもあった。

問2 英文の流れに合わせ、空欄にあてはまる最も適切なものを選んで、それぞれ正しい形に変えて答える問題である。Aがある英文の意味は、「もし赤土で( )ならば、サンゴが育つのは難しい」である。「覆う」を意味するcoverを選び、受動態にするため、過去分詞のcoveredが正答となる。

Bがある英文の意味は、ヒトデによる食害に関して「(サンゴの白化現象は)美しく見えるが、実際にはサンゴは生きているけれどもゆっくりと( )のだ」となる。( )が「死につく」という内容になるdieを選び、進行形にするため、現在分詞のdyingが正答となる。形容詞deadは、aliveと矛盾することから正答ではない。前後の話の流れをしっかりとつかみたい。

問3 本文の内容に関する日本語の質問に対して日本語で答える問題である。下線部は「人々が時折サンゴにさわったり壊したりしてしまう」という意味から、この問題は赤土に対する対策とは別の問

題であることが分かる。続く3段落目に“Some of these visitors touch or even break corals, so to stop problems like this, a law to save places plants and animals live in was made.”と述べられていることから、正答例は「動植物が生きる場所を救うための法律がつけられた。」となる。本文から必要な情報を正確に読み取りたい。

問4 英文の流れと合うように、本文中の3つの空欄を補う文として適切なものを、それぞれ記号で答える問題である。①については、前文までに「人々はほかにも対策をとっている。例えば、ある地域の漁業協同組合にはサンゴを食害するヒトデを取り除こうとするところもあるが、非常に難しい。」とあり、続く文には「また、海はとても広く、我々にできることは多くない。だから、我々にできる最もよいことは、2、3の地域に集中することだ。」とある。そのため、選択肢の中からヒトデの対策に関わるものを選び、その上で、「この方法は、そのヒトデが増え始めた後でとられたため、うまくいかなかった。」という力が正答となる。②については、前文までに「海に新しいサンゴを移植することによってサンゴ礁をよみがえらせようと活動する人々もいる。漁業協同組合は環境が悪化しているのを心配し、サンゴ礁を救う新しい方法を見つけようとした。」とある。続く文には「3年後、彼らはサンゴを移植するよりよい方法がわかり、そしてある航空会社がその村の漁業協同組合を支援し始めた後、多くのダイバーが彼らを助け、より多くのサンゴを移植し始めた。」とある。よって文脈から、「沖縄のある村では、漁業協同組合が1999年にサンゴを移植し始めた」というAが正答となる。③については、前文の内容がthis activityという表現に置き換えられていることが分かれば、「2004年には15社以上の会社がこの活動に参加した。」というIが正答となる。

問5 本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。Kazumaがサンゴの移植体験に参加した経験は第5段落に書かれている。“I was glad to learn that many people were working hard to save the sea.”とあることから、Because he learned that many people were working hard to save the sea.等が正答となる。

問6 本文の内容をまとめた英文の空欄に、適切な英語をそれぞれ2語で答える問題である。正答例としては、(1)については、第2段落の“a kind of starfish that eats corals”から、eaten by等となる。(2)については、第5段落に“I actually tried transplanting corals through this program with my family in Okinawa last summer.”とあり、直後にinがあることからtook part等となる。(3)については、空欄の前後に“Kazuma wanted”と“think about the environment”とあり、第5段落に“Everyone should think about the environment.”とあることから、everyone to等となる。キーワードが指す内容を押さえながら読み、全文の内容を理解することが大切である。

様々なテーマや分野に関するまとまった長さの英文を読み、理解が不十分と思われる事項の確実な定着を図りたい。

4 与えられた条件に従い、まとまった内容を英語で適切に表現できるかをみようとしたものである。解答の仕方として、例えば、information literacy skillsを学ぶ目的が情報の選択、収集、活用だと考えて、I think elementary school students should start learning the skills to choose, collect and use information.のように考えを、その理由がわかるように40語以上50語程度の英語で書くことがポイントである。

誤答としては、名詞の単数・複数に関わる表現や、時制を含む主語と述語動詞の一致が不適切なものが最も多くみられた。また、easily とすべきところをeasyとする等の品詞の誤用、dangerous等の綴りに関するもの、冠詞や大文字・小文字の誤り、agree withといった表現での前置詞の誤用等がみられた。文章自体に一貫性がない記述や、無用な繰り返し等があるというものもみられた。

問題に正対し、適切な表現を用いて内容に一貫性のある文章を書けているかということに注意を払いたい。また、文のつながりや展開等にも意識を向け、自分の考えや理由等が読み手に正しく伝わる文章を書く力を充実させたい。